

TNC
通信

2014
5月号

吉林省への友好植林訪中団、成功裏に！

県協会主催の訪中団（4月16日から4泊5日）による植林事業が吉林省・九台市で行われました。また省対外友好協会や九台市による歓迎会、長春大学との交流等の諸行事も友好的に成功裏に行われ、富谷日中からは水戸、本郷さんが参加しました（詳細は別紙増刊号）。なお8月には生育状況の調査訪中もあり、富谷日中からも多くの参加者を募ります。



定期総会は6月8日に変更！

3月28日に幹事会が行われ、市制移行をふまえた規約・細則の検討を行い、また当初6月15日予定の第19回定期総会は8日（日）午後2時開始に変更となりました。



4月7日にホテル法華クラブで開催。本部から村岡理事長が出席し、日中の現状と経緯を講演した。富谷からも水戸会長、松田副会長が出席した。



**何平・新潟総領事
着任レセプション
行う**（3月25日、新潟市内のANAクラウンプラザホテル新潟で）

在新潟中国領事館の何平（He ping）総領事の着任レセプションが行われ、新潟、山形、福島、宮城県から約300人が出席。当会会長も招待された。総領事は流ちょうな日本語で「関係の困難な状況の今こそ、地方そして民間の交流推進が重要であり、各県とのつながりを大事に関係改善と一層の発展に尽力したい」旨、挨拶し、泉田県知事や橋本日中友好協会副会長ら来賓の祝辞が続いた。なお同総領事は13日に宮城県知事、県協会事務所を表敬訪問している。

協会の北海道・東北ブロック会議を開催

今月の
一冊

「北京の胡同（フートン）（ピーター・ヘスラー著、栗原泉訳、白水社、2376円）」

本書のタイトルは14編のルポの1編で、2000年から10年間の一味違うアメリカ人が歩いて、生の人間と接し、虫の眼でのぞいたノンフィクションだ。つまり中国各地の胡同というわけ。一例。「野生の味」でのやり取り。「（広東の店でウエイトレスから）ネズミは大きいのにしますか、小さいのにしますか」「どう違うの」「お勧めは」「どちらも」「（店主）定期的に食べると、白髪が黒くなりますよ」等、ユーモアそれでいてシニカル。当局の監視や中国人の金銭感覚、北京五輪や三峡ダムの裏事情など、ちょっと考えさせられながらも楽しく読み進められます。（Y）

仙台の“魯迅”を歩く②



写真上④が佐藤屋。⑤は現在、碑がある家。下は当時の二高と医専の正門

概略②仙台医学専門学校。1887年（明治20年）に第二高等中学校医学部として発足し、1901年に専門学校として独立。後に東北帝国大学の医学専門部となる。

桜の花が散り始めた片平丁通りを歩く。魯迅の第一の下宿は佐藤屋（佐藤喜東治氏経営）で、一階が向かい側にある未決囚を収監している監獄署（現在は放送大学宮城学習センター、金研10号館）に差し入れる弁当屋、その二階に住むことになる。近くが片平公園で♪広瀬川流れる岸边 というわけ。現在は別の家屋（米ヶ袋1丁目1-11）となっているが「魯迅故居跡」の碑があり、時折、観光客が写真を撮っていく。左隣りの「珈琲まめ坊」で一休み。

当時の二高・医専の正門は現在の東北大正門より南で、佐藤屋から500m程と近い。今も「第二高等学校」の門が立っている。しかし「ある先生がこの旅館は囚人の食事も請け負っており、そんなところに住むのは具合が悪いと考え、繰り返し繰り返し僕にそう言うのだ」（『藤野先生』）とあり、第二の下宿に移る。同級生の証言から、およそ半年以上も後の事になる。“ある先生”とは恩師・藤野巖九郎の事のようにだ。